

2. 指定に至る経緯

国指定史跡「長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山」は昭和 14 年（1939）9 月 7 日に長久手古戦場（勝入塚・庄久郎塚・武蔵塚・鎧掛松ほか）、御旗山、首塚、色金山が、以下の理由（説明）により国史跡に指定された。

- ・天正 12 年（1584）小牧・長久手の戦いの主戦場にして激戦地点であったと認められること。
- ・羽柴秀吉の先鋒池田恒興、庄九郎父子・森長可と徳川家康軍が激戦したところ。
- ・字仏ヶ根に池田恒興、字武蔵塚に池田庄九郎、その西方約二町（約 220m）同字地内に森長可の墓があり、いずれも明和 8 年（1771）12 月建設の石標及び各家子孫の建設による顕彰の石碑があること。
- ・字城屋敷は池田方の陣地と伝えられ、鎧掛の松と呼ばれた老松があったが枯損のため今は取り除かれている。
- ・御旗山は、高さ約 300 尺（約 90m）の独立の小山で眺望に富み、家康の牙旗を立てたところと伝えられ、頂上の富士社社殿の傍にその由来が記された石標があること。
- ・首塚は、大字岩作の人家に囲まれた中に石垣を組み、寛永 3 年（1626）4 月建設の石標、明治 43 年（1910）4 月建設の首塚碑があること。
- ・色金山は、首塚の北約 1 町（約 110m）安昌寺の後方にある丘陵であり、南西に激戦地を望め、丘上にある 3 個の自然石は床机石と呼ばれ、家康が戦況展望の際に床机にかえたるものと伝えられ、寛永 3 年（1626）建設の石標及び明治 43 年（1910）4 月建設の碑があること。

3. 指定の状況

(1) 指定告示等

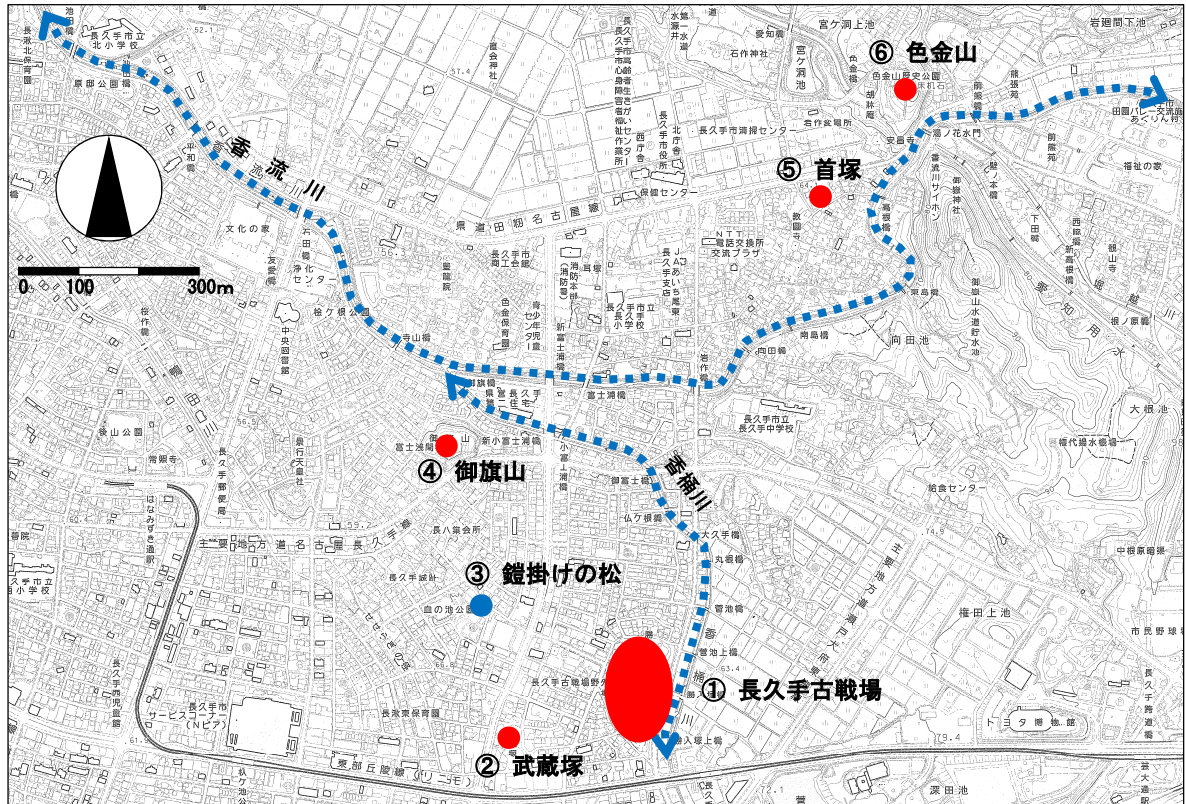
① 指定告示

昭和 14 年（1939）9 月 7 日、文部省告示第四百十号により、以下の箇所が史跡名勝天然記念物保存法第一条に依り第一類の史跡に指定された。

長久手古戦場	愛知県愛知郡長久手村大字長湫字佛ヶ根	五番、一二番、一九番	－①
	同	字武蔵塚	四番ノ一、四番ノ二、五〇番
	同	字城屋敷	九〇番ノ一、九〇番ノ二
附 御旗山	同	字富士浦	四一番 富士社境内
首 塚	同大字岩作字元門	四一番	－⑤
色金山	同字色金	三七番ノ一、内實測七畝十五歩	－⑥

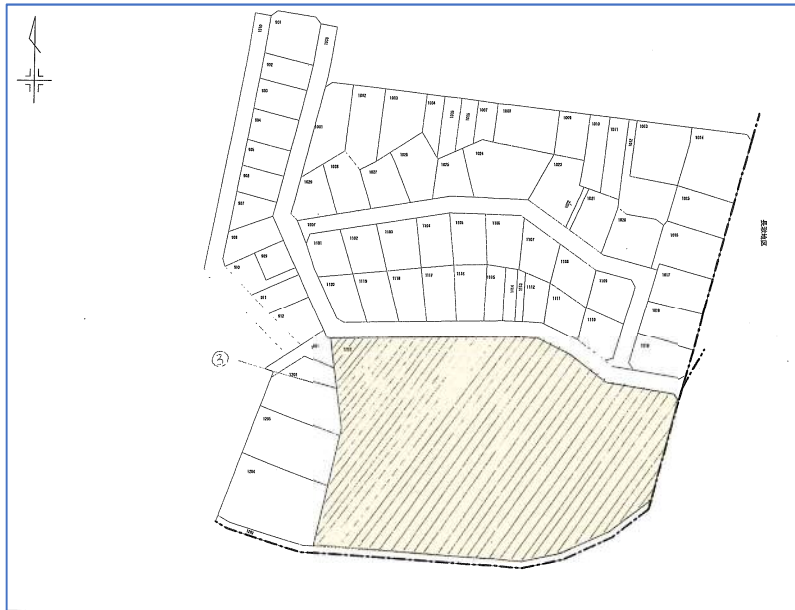
※右側の○数字は下図の史跡地の位置を示す。

・その後、同字城屋敷 九〇番ノ一、九〇番ノ二（現在の血の池公園付近）は、土地開発により著しく改変があったとされ、昭和 40 年（1965）12 月 10 日付けで、文化財保護委員会告示第 66 号により指定を解除された。



国指定史跡位置図

② 地積図



●長久手古戦場（勝入塚）
仏が根 1202 番

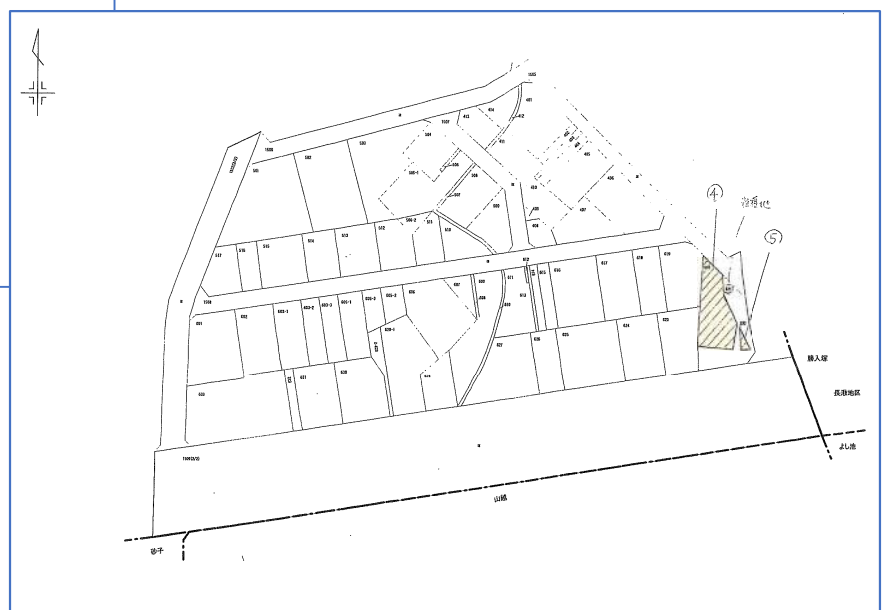


●長久手古戦場（庄九郎塚ほか）
武蔵塚 202 番地、武蔵塚 205 番（庄九郎塚）

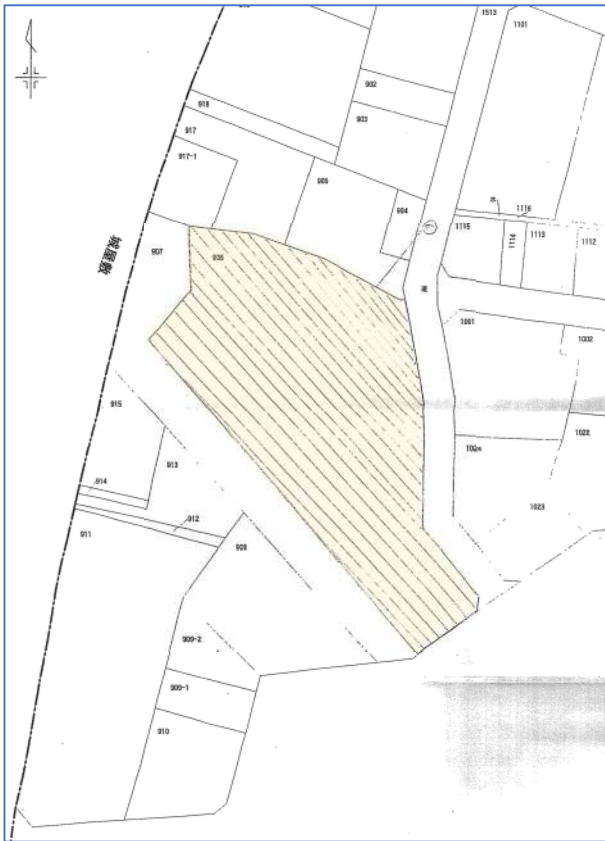


・西側斜面に見られる境界石

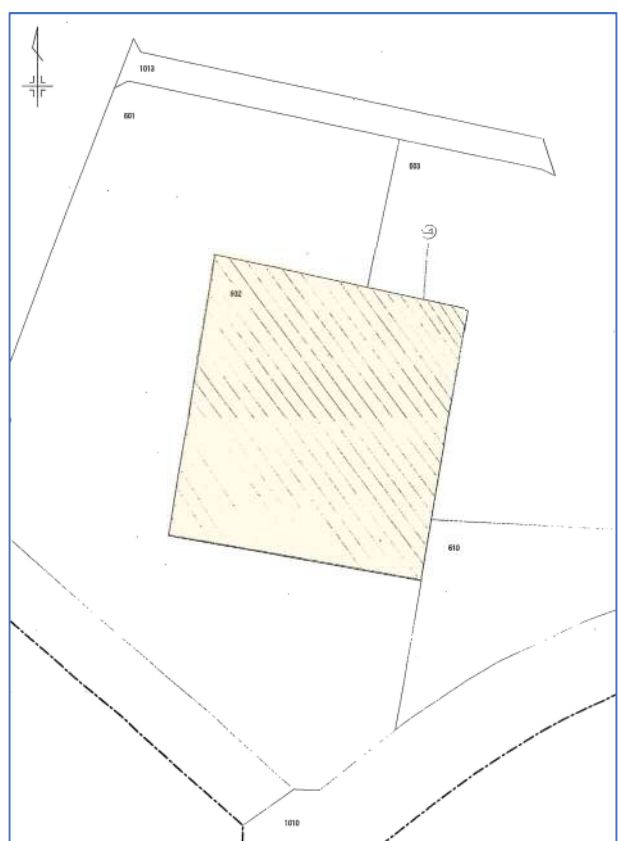
●長久手古戦場
武蔵塚 620 番、武蔵塚 622 番



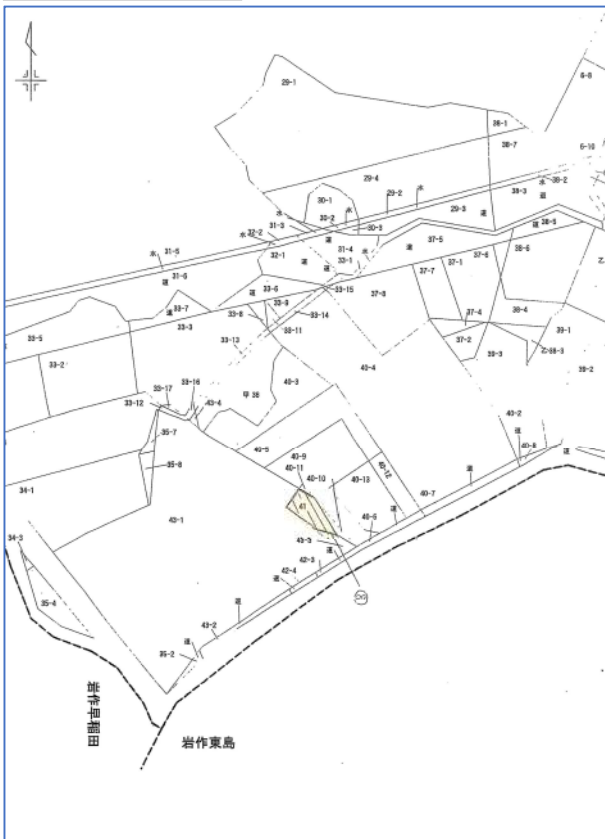
●長久手古戦場（武蔵塚）
武蔵塚 906 番



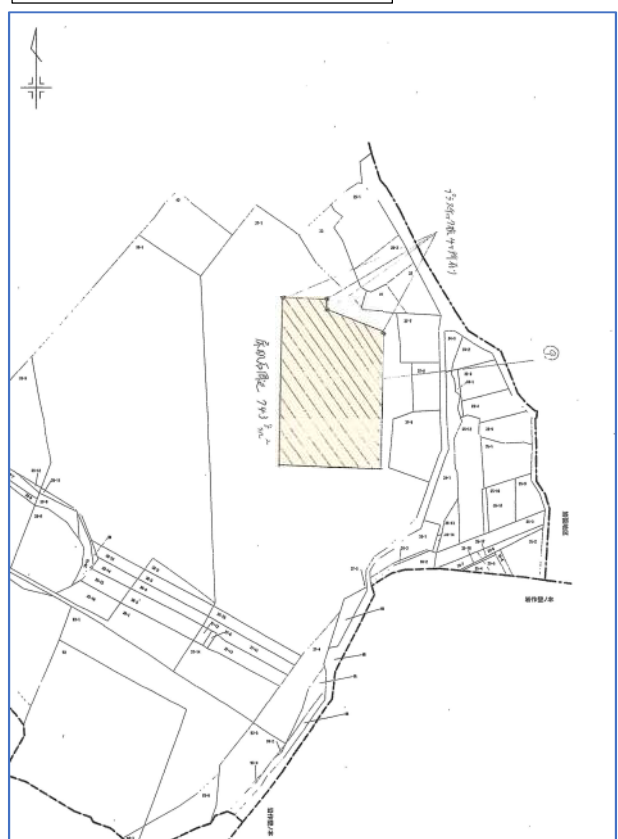
●附 御旗山
富士浦 602 番



●附 首塚
岩作元門 41 番



●附 色金山
岩作色金 37 番 1 の一部

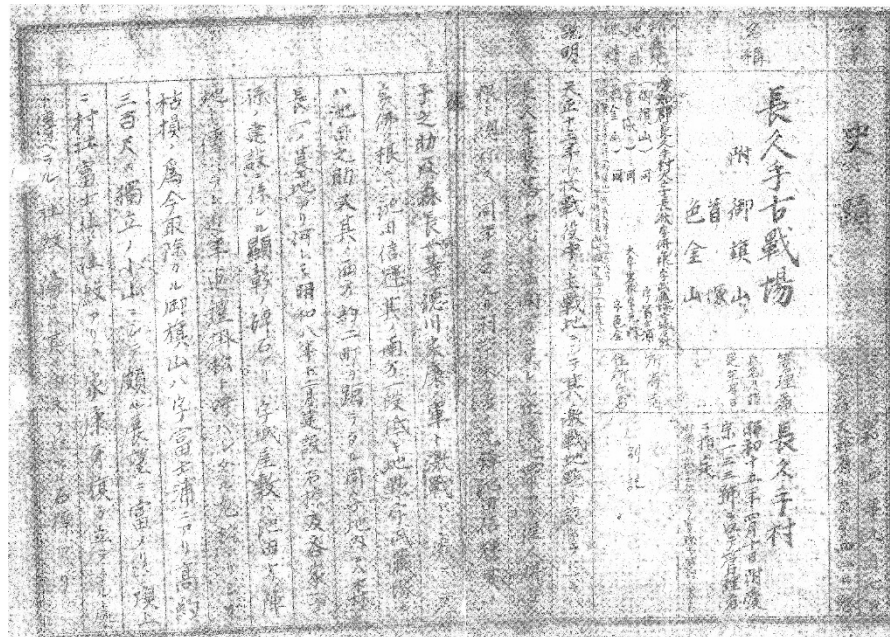


(2) 指定解説文

文部省告示第四百十号による国指定史跡の事由及び保存の要件は以下の通りである。

指定の事由	史蹟の部第四及第三ニ依ル(当時は、史跡を史蹟として表示)
保存の要件	碑石ノ毀損及破壊ヲ為サザルコト 樹木ノ伐採及栽植ニ當リテハ十分注意スルコト

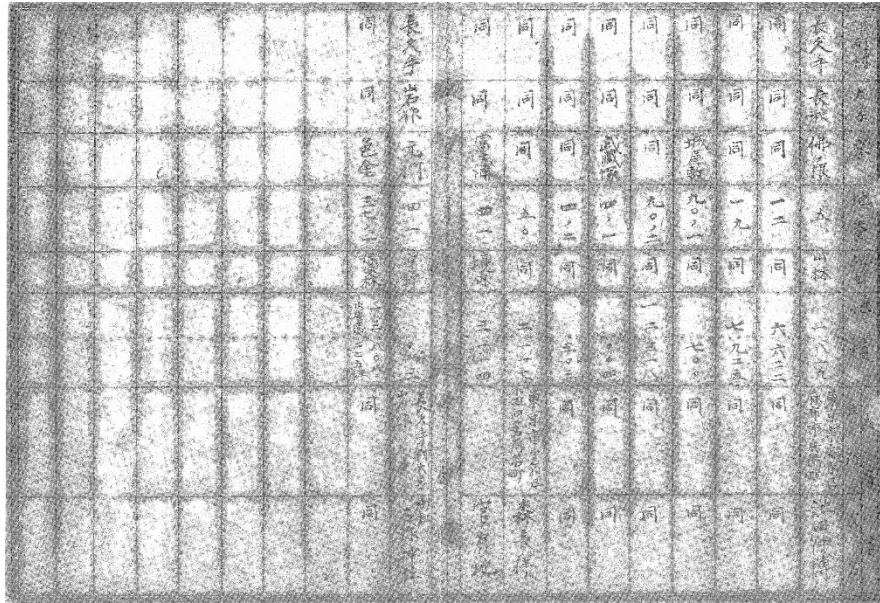
長久手古戦場史跡指定書(その1)



長久手古戦場史跡指定書(その2)



長久手古戦場史跡指定書（その3）



解説（文化庁 国指定文化財等データベースより）

天正十二年小牧戦役中ノ主戦地ニシテ其ノ激戦地点ト認メラルベキハ長久手聚落ノ中心ヨリ西南方ニ互レル丘陵地帯ナリ俚人、佛ヶ根ト總ス 同年四月九日羽柴秀吉ノ先鋒池田信輝其ノ子之助及森長可等徳川家康ノ軍ト激戦セシ處ニシテ、字佛ヶ根ニハ池田信輝、其ノ南方一段低キ地点字武藏塚ニハ池田之助又其ノ西方約二町ヲ距テタル同字地内ニハ森長可ノ墓地アリ何レモ明和八年十二月建設右標及各家子孫ノ建設ニ係レル顯彰ノ碑石アリ 字城屋敷ハ池田方陣地ト傳ヘラレ近年迄鎧掛松ト呼バレタル老松アリシガ枯損ノ為今取除カル御旗山ハ字富士浦ニアリ高約三百尺ノ獨立ノ小山ニシテ頗ル展望ニ富メリ 頂上ニ村社富士社ノ社殿アリ 家康牙旗ヲ立テタル處ト傳ヘラル 社殿ノ傍ニハ其ノ由來ヲ記セル石標アリ 首塚ハ大字岩作字元門縣道ノ北側人家ニ圍マレタル中ニアリ高三尺東西十六尺、南北二十尺略方形ニ石垣ヲ組ミ中ニ寶永三年四月建設ノ首塚ト記セル石標及明治四十三年四月建設ノ首塚碑アリ 塚ハ高五尺バカリ上ニ松槭等ノ樹木繁茂セリ

色金山ハ首塚ノ北約一町安昌寺ノ後方ニアル丘陵ニシテ南西ノ間ニ激戦地点ヲ望見シ得ラル 丘上ニアル三個ノ自然石ハ古來牀几岩ト呼バレ家康戦況展望ノ際牀几ニ代ヘタルモノト傳ヘラル 傍ニ寶永三年建設ノ御牀机石ト記セル石標及明治四十三年四月建設ノ胡牀石記ト題スル碑アリ

(3) 指定地の状況

① 所在地と面積

史跡長久手古戦場（附 御旗山、首塚、色金山）の住所・地目・面積については、以下の通りである。

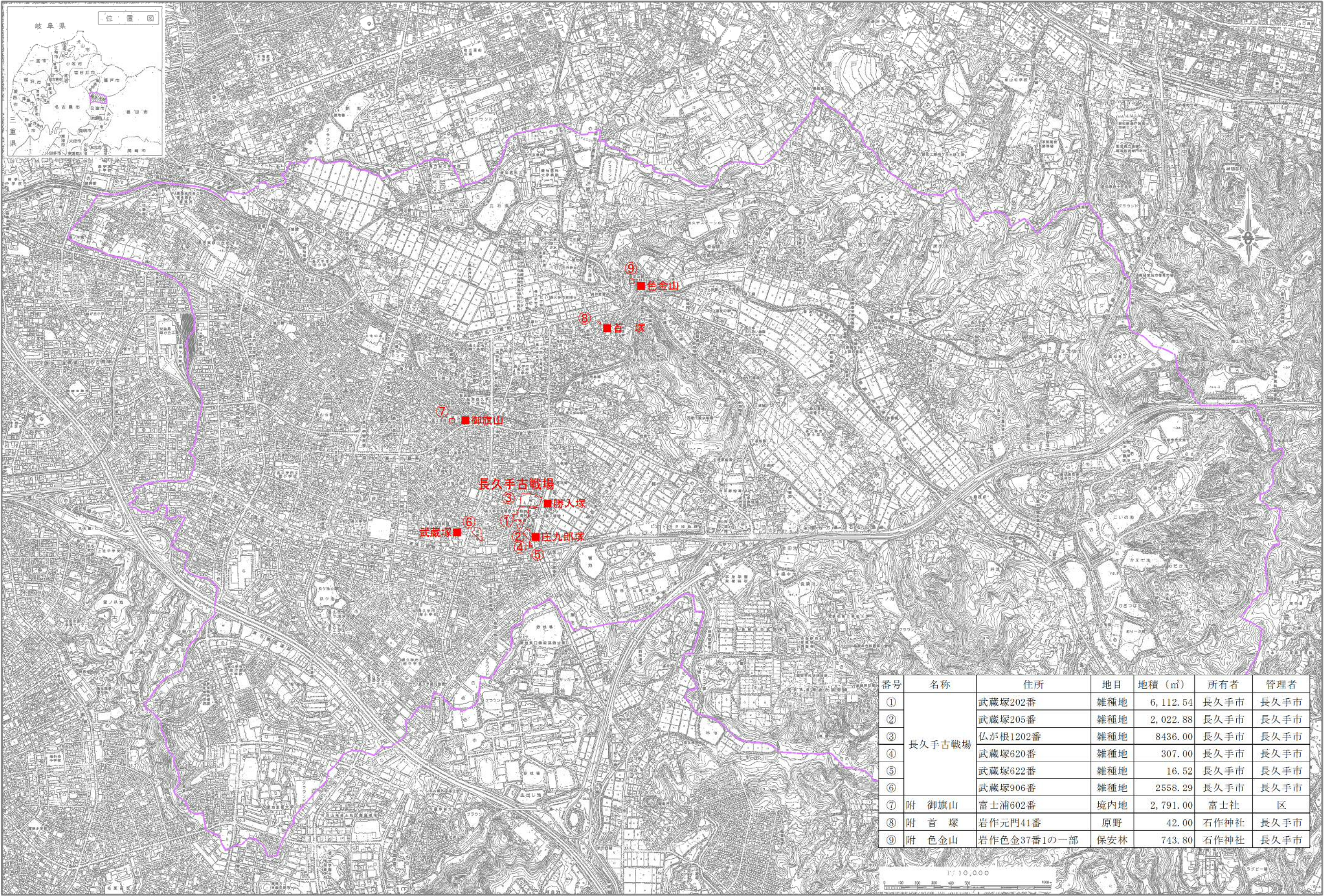
名称	住所	地目	地積（㎡）
長久手古戦場	武蔵塚 202 番地	雑種地	6,112.54
	武蔵塚 205 番地	雑種地	2,022.88
	仏が根 1202 番地	雑種地	8,436.00
	武蔵塚 620 番地	雑種地	307.00
	武蔵塚 622 番地	雑種地	16.52
	武蔵塚 906 番地	雑種地	2,558.29
附 御旗山	富士浦 602 番地	境内地	2,791.00
附 首塚	岩作元門 41 番地	原野	42.00
附 色金山	岩作色金 37 番地 1 の一部	保安林	743.80

② 現況管理体制

土地所有・管理については、以下の通りである。

名称	住所	所有者	管理者
長久手古戦場	武蔵塚 205 番地外 5 筆	長久手市	長久手市
附 御旗山	富士浦 602 番地	富士社	境内地として区が管理
附 首塚	岩作元門 41 番地	石作神社	長久手市
附 色金山	岩作色金 37 番地 1 の一部	石作神社	長久手市

■ 参考資料
【位置図】



【史跡長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山】に関する年表

和暦	西暦	内容
天正10年	1582	6月 織田信長、本能寺で明智光秀に滅ばされる。
天正12年	1584	3月 6日 織田信雄方、三家老を切り、豊臣秀吉と戦闘状態に入る。
		3月12日 織田信雄方、伊勢亀山を攻める。(戦いの始まり)
		3月13日 池田恒興・森長可、犬山城を攻撃、落城させる。
		3月17日 (羽黒の戦い) 家康の武将酒井忠次らが羽黒で森長可に大勝
		3月27日 豊臣秀吉、楽田に着陣
		3月28日 徳川家康、小牧山へ陣替え
		4月 6日 (長久手の戦い) 羽柴秀次、小幡・龍泉寺方面へ進軍
		4月 8日 両軍長久手へ進軍。
		4月 9日 (白山林の戦い) 羽柴秀次、白山林で榊原康政らに背後を襲われ総崩れとなる。
		同 (松ヶ根の戦い) 堀秀正軍の総攻撃により徳川先発隊が大打撃を受ける。
		同 (仏ヶ根の決戦) 徳川本隊が色金山周辺から富士ヶ峰（御旗山）へ進軍し仏ヶ根、前山に陣を構え、激戦となる。池田恒興・森長可、仏ヶ根で討死。
		同 秀吉が率いる軍勢が楽田を出発。
		同 家康、小牧山へ戻る。長久手の合戦が終わる。
		11月15日 豊臣秀吉、織田信雄と和議成立。
文禄元年	1592	富士浅間社、浅井助左衛門により創建。
寛文11年	1671	『寛文村々覚書』編纂。
元禄10年	1697	朝日文左衛門、長久手古戦場を見物。（『鸚鵡籠中記』）
宝永3年	1706	尾張藩士福富親茂が、床机石と首塚に銘を刻み、宝永の石柱を建てる。
明和 8年	1771	尾張藩士人見彌右衛門、赤林孫七郎により明和の碑建立。 (庄九郎塚、勝入塚、武蔵塚)
文政5年	1822	樋口好古、『尾張徇行記』編纂完了。
明治24年	1891	明治の碑 建立
明治43年	1910	地元有志が、床机石と首塚に漢文碑を建てる。
昭和14年	1939	9月7日 国の史跡に指定される。
昭和31年	1956	長久手村の棒の手、県無形民俗文化財に指定
昭和34年	1959	伊勢湾台風
昭和40年	1959	城屋敷90-1、90-2、12月指定解除（鎧掛け松と血の池）
昭和42年	1967	長久手土地改良区、土地改良事業着手
昭和46年	1967	町制施行により長久手町となる
昭和49年	1974	長湫東部土地区画整理組合設立
昭和52年	1977	長久手町文化財保護条例制定
昭和56年	1983	長湫中部土地区画整理組合設立
昭和58年	1983	国の指定に漏れたいくつかを町指定とする。（長久手城趾、堀久太郎秀政本陣地跡、木下勘解由塚）
		長久手町郷土史研究会設立
昭和60年	1985	長久手市郷土資料室供用開始
		岩作の「オマント」 県無形民俗文化財に指定
昭和61年	1986	長久手古戦場公園供用開始
平成 8年	1996	色金山歴史公園供用開始
平成17年	2005	リニモ開業
		2005年日本国際博覧会開催（「愛・地球博」）
		長湫の警固祭り 県無形民俗文化財に指定
平成18年	2006	愛・地球博記念公園開園
平成24年	2012	市制施行により長久手市へ

【史跡長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山】の概要

番号	名称	住所	地目	地積（㎡）	所有者	管理者	石碑建立年	刻銘（正面）			
①	長久手古戦場	武蔵塚202番	雑種地	6,112.54	長久手市	長久手市	石碑なし				
②		武蔵塚205番	雑種地	2,022.88	長久手市	長久手市	庄九郎塚（池田元助）				
							明和の碑	明和 8年(1771年)	池田紀伊守之助戦死場	人見彌右衛門 赤林孫七郎	
							明治の碑	明治24年(1891年)	紀伊守池田戦死場	侯爵池田輝博建之	
							勝道九兵衛の碑	昭和16年(1941年)	勝道九兵衛秀胤討死之处	昭和57年に移設されたもの	
							庄九郎塚の老松	樹齢300年余		尾張藩士か	
③		仏が根1202番	雑種地	8436.00	長久手市	長久手市	勝入塚の石碑(池田恒興)				
							明和の碑	明和 8年(1771年)	池田勝入信輝戦死場	人見彌右衛門 赤林孫七郎	
							明治の碑	明治24年(1891年)	勝入池田公戦死場	十六世孫 池田輝博 恒興の子孫が建立	
④		武蔵塚620番	雑種地	307.00	長久手市	長久手市	二本松塚				
							昭和22年(1947年)	二本松代石			
⑤		武蔵塚622番	雑種地	16.52	長久手市	長久手市					
⑥		武蔵塚906番	雑種地	2558.29	長久手市	長久手市	武蔵塚（森長可）				
							明和の碑	明和 8年(1771年)	森武蔵守長可戦死場	人見彌右衛門 赤林孫七郎	
	明治の碑						明治31年(1898年)	森公遺蹟碑	十五世孫 子爵森長祥撰並書		
⑦	附 御旗山	富士浦602番	境内地	2,791.00	富士社	区	御旗山				
							不明			有志人村中	
⑧	附 首 塚	岩作元門41番	原野	42.00	石作神社	長久手市	首 塚		有志人村中		
							宝永の碑	宝永 3年(1706年)	首塚 別紙	尾張藩士福富親茂	
							明治碑	明治43年(1910年)	別紙	尾張藩士福富親茂	
⑨	附 色金山	岩作色金37番1の一部	保安林	743.80	石作神社	長久手市	色金山・床机石				
							床机石	地山の天然石か	家康が軍議の際に床机に代えて用いたとされる石	—	
							宝永の碑	宝永 3年(1706年)	㊦御床机石	尾張藩士福富親茂	
							明治の碑	明治43年(1910年)	別紙	(発起人)吉田知行、拓殖吟海、浅井広助、浅井三郎	
関連	永見寺	町史 P 243					永見寺		参拝請延命地藏大菩薩尊	為顕功永節大居士 為護国院雄岳宗英大居士 為鐵圍秀公大居士	池田徳川 両軍戦死之霊供養者也
							棟札(桧)	天正13年（1585年）			